

佐賀大学医学部内科学講座呼吸器内科は、地域医療を守るべく、人材確保と呼吸器専門医育成を使命とする。同教室の臨床・研究・教育における取り組みについて、高橋浩一郎・診療教授に話を聞いた。

### ―教室の特徴は。

内科学講座は、本学前身の佐賀医科大学時代から、地域医療に活躍できる人材の育成に力を注いできました。近年は新型コロナウイルス感染症のパンデミック対応時の医師不足、また結核病床のある感染症指定病院への医師派遣確保など、県内の呼吸器内科医の確保と育成がより必要とされるようになりました。

2023年10月、佐賀県感染症等医療提供体制強化事業が開始され、よ

り地域医療に力を入れていくことになりました。本事業は地域医療を担う若手医師の教育を強力に推進することが目的です。呼吸器内科の教育担当医師を配置し、手術や検査などの手技に関するセミナーを開催するなど、学生向け・研修医向けの教育活動にも力を入れています。

人材育成面では、若手が研修医を、研修医が学生をそれぞれ教育する、昔ながらの「屋根瓦方式」を採用しているのが特徴です。年齢の離れた指導者ではなく、質問がしやすい同年代の先輩のそばで、数年後の将来像を具体的に描ける環境を提供しながら、当診療科をより深く理解してもらえよう努めています。私自身も若手の考えを理解しサポートできるよう、一



たかはし こういちろう  
高橋 浩一郎 診療教授

1996年佐賀大学医学部卒業。東京大学医科学研究所、米ファイナンスイン医学研究所、佐賀大学医学部呼吸器内科准教授を経て、2024年から現職。

## 講座クローズアップ

# 佐賀大学医学部内科学講座 呼吸器内科

## 臨床・教育・研究を推進 人材育成に注力

人ひとりの声を聞くことを心がけています。また専門医取得に向けて学会参加経費や受験料などの助成を行っているのも特色の一つです。

また本学医学部は男女比率が同等であり、当科でも多くの女性医師が活躍しています。そのため妊娠・出産といった女性のライフイベントに合わせた働き方に配慮し、医師2人で1人分の外来診療を担当してもらうなどの体制を敷いています。

### ―診療・研究の特色は。

私自身がぜんそくや慢性閉塞性肺疾患(COPD)を専門としており、診療で特に注力しているのが重症ぜんそくです。このほど難治性ぜんそく外来を立ち上げ、24年に広報も始めました。重症ぜんそく患者の受診日時を集約することで、時間のかかる生物学的製剤の自己注射の指導などの効率化を図ります。

COPD領域は、医師に加え、看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・ソーシャルワーカー・薬剤師らが参加するカンファレンスを週1回行うなど、チーム医療に力を注いでいます。特に退院後のサポートにつながるソーシャルワーカーは、COPD治療に欠かせない存在です。

がん治療に関しては遺伝子診断の普及により治療の選択肢の幅が拡大しています。肺がん領域でも週に1度、エキスパートパネルを実施し、その判定を患者にフィードバックし、より良い治療を提案しています。

私自身が基礎研究に長く従事してきたという背景もあり、現在も研究員を配置して学会発表、論文などを継続しています。また比較的近い将来に社会や患者に還元できる臨床研究はとても重要で、基礎研究と同等に重きを置いています。

### ―今後の展望は。

医療を取り巻く環境はかなりダイナミックに変化してきていますが、臨床・教育・研究という3本柱が軸であることは変わりません。地域の医療を担う診療を行うためには、学生・医師への教育が必要であり、医療の発展に貢献する研究も不可欠です。

一方、医師としてのモチベーションの多くは臨床の現場で患者から必要とされ、感謝されることで高められるのではないのでしょうか。教育・研究も大切にしながら、患者と心を通わせ、信頼される医療人を一人でも多く輩出できる教室であり続けられるよう努めます。